

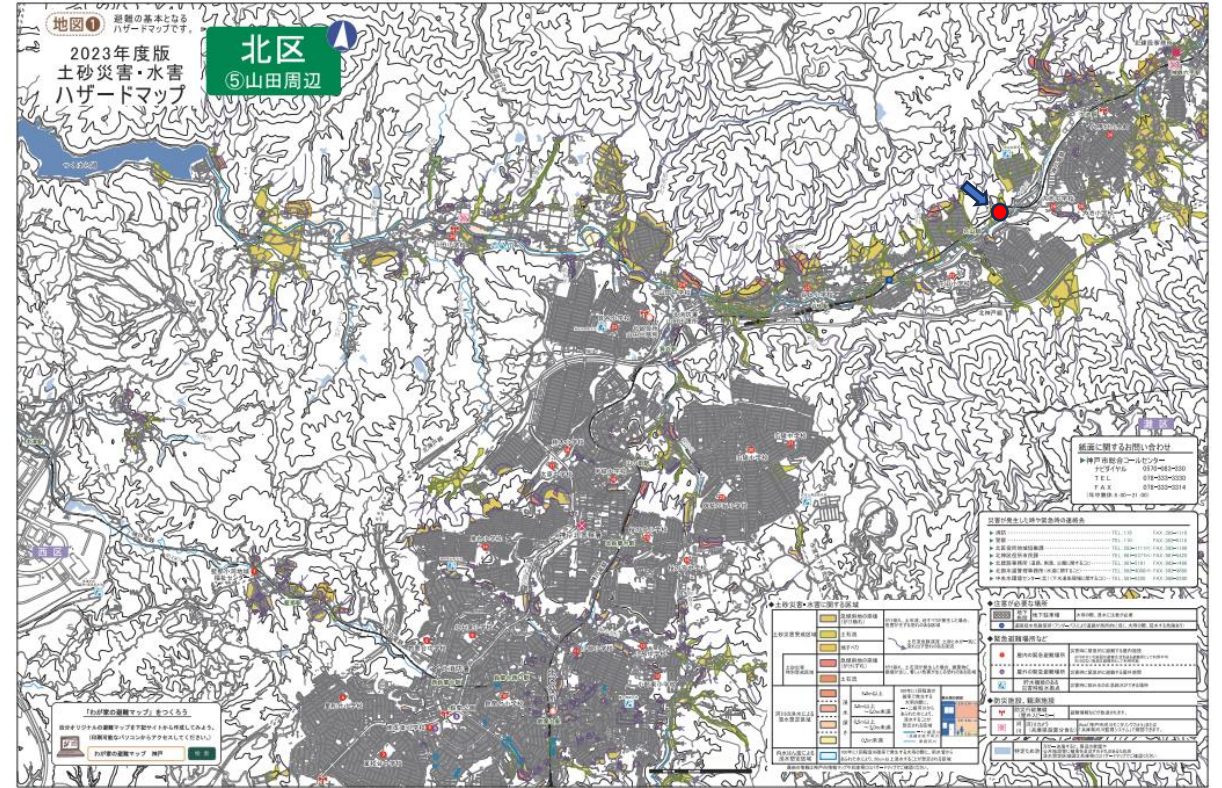
2023年度厚生労働省医政局委託事業  
「在宅医療の災害時における医療提供体制強化支援事業」

連携型BCP/地域BCP策定モデル地域  
兵庫県神戸市(北区)における取組み

大石 醒悟, 杉原 麻理子, 真保 友仁, 園田 慶子

# 地域の状況

- 神戸市北区 (211106名: 令和5年 4月30日現在)
- 神戸市北区は六甲山の北側に位置しており、面積は240.29平方キロメートルで全市面積の約44%をしめ、神戸市9区のなかで1番広い区であるが、山間に東西南北に長く広がり、人口密度としては全区の中で最も低い。有馬温泉という温泉街もあるが、山間に位置する地域であるため、道は狭く、土砂災害のリスクも非常に高い。高地であるため、冬は降雪のために北区の唯一の生活道路である有馬街道を中心に交通渋滞を来すことも多く、災害時には医療・介護の分断が生じやすい地域であるものと想定される。
- 神戸市は1995年1月17日阪神・淡路大震災を経験した。神戸市北区は神戸市の中では比較的損害は少ない地域であったが、電車、車などの交通網や水道などのライフラインは遮断され、有馬温泉周囲も地盤が弱く、壊滅的な打撃を受けた。その後も大雨の際の土砂崩れ、倒木による交通網の障害はしばしば経験される。
- 神戸市北区は広範なエリアに10の救急告示病院(2か所は公的病院)と34か所の訪問看護ステーションが散在している。人口と同様に密度は低く、密な連携は取りにくい環境にある。



# わが地域の課題

## ・これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと

病院間の連携や病院近隣の在宅医療ケア資源においては比較的連携は取りやすいと考えられるが、同一法人であったとしても遠方であれば連携は容易ではなく、運営組織が異なる場合にはさらに連携が難しいことを阪神・淡路大震災の際にも多く経験した。また、精神疾患を診療する病院、施設、維持透析実施施設も当地域には多く存在し、そのような施設におけるコロナ対応は本地域において大きな課題であることも浮き彫りとなった。

## ・連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由

当法人は、病院を中心に在宅医療ケア資源も運営しているが、事業所間には通常であっても自家用車で20分程度の距離がある。それぞれの事業所でBCPの策定は進めているが、現時点では互いのBCPの内容が共有できておらず、事業所間の連携についての取り決めについても協議できていない。本来災害時の対応は地域における施設連携が重要な構成要素であり、連携型、また地域BCPの策定が急務であると考えに至った。

## ・わが地域のBCP観点からの課題

- ①病院および在宅医療ケア資源が広範囲に散在し、連携を取ることが容易ではないこと
- ②唯一の生活道路である有馬街道が分断されると交通が遮断されるリスクが高いこと
- ③山間地域では、携帯電話の電波が繋がらない地域があり、有事の際の連絡を取ることが困難であるリスクがあること

# 今年度の取り組み(1)

## ・目的(何を指すのか)

同一医療法人内における病院および在宅医療ケア資源をつなぐBCPを策定する。各施設の特性について互いに批判的に吟味を行い施設毎に策定することと共に、想定される有事の際の連携に関する方法論について議論し、連携型BCPを策定する。

## ・実際にどのようなことにチャレンジするのか

想定される有事について、地震、水害、雪害による施設被害があった場合、生活道路が遮断された場合の職員対応、利用者への対応について協議し、単施設での訓練だけでなく、関連施設で同時にシュミレーションを行い、実際の連携について可能かどうか確認を行う。電話連絡網が使用できない場合の方法論についても議論し、準備を行う。

## 今年度の取り組み(2)

### ・必要な支援

"これまでに施設間連携の際に蓄積された方法論の共有電話連絡網が使用できない場合のトラブルシューティングの指南その他、先進的に取り組まれている施設の事例の共有"

### ・具体的スケジュール

2023年10月までに1か月毎程度、各施設の代表者会議を繰り返し、各施設毎のBCPについて策定する。さらに、同年12月までに施設間連携について、有事の際を念頭にBCPを策定し、2024年2月までに関連施設で日程を合わせシュミレーションを行う。

## 今年度の取り組み(3)

### ・7月1日以降の進捗

#### ①各事業所毎のBCPの策定・進捗状況の確認(現在進行中)

- a. 真星病院、b. まほし介護医療院、c. 訪問看護ステーション まほし、d まほし居宅介護支援事業所コスモス、e 在宅介護支援事業所からと、f 有馬あんしんすこやかセンター、g デイサービスセンター まほしの里

#### ②周辺事業所からBCPに関するニーズ評価

##### 地域連携室から周辺事業所へ現状およびニーズ評価

- ・災害時の応援のための情報ツール作成・道路状況のリアルタイム情報の共有
- ・安否確認のできる方法論の確立
- ・人工呼吸器使用の利用者の電源確保(バックアップ病院の確保)
- ・精神の訪問看護利用者への対応
- ・助け合いで異なるステーションが訪問した際の契約についての懸念